



社員研修に焚き火や森林に関する事業体験ツアー等を導入

人材育成や自社の新規事業の検討を目的とした研修に、焚き火や薪ストーブを囲んでの話し合い、協働作業としての炊事、森林に関する事業体験ツアーを活用。

導入の経緯と決め手

SDGsに向けて、パーク（アドベンチャーワールド）内での取組だけではなく、地域にもっと貢献していきたいと考えていたところ、パートナー企業とのオフサイトミーティングで宿泊型ミーティング施設「TAKIVIVA」を訪れ、施設の運営会社（（有）きたもっく）の事業理念が自社が目指す事業の方向性と一致していると感じ、社員の意識醸成や地域・社会貢献の新規事業のイメージを膨らませる場として活用することとした。

取組内容とその効果

<実施地域：森林サービス産業推進地域「群馬県長野原町地域」>

人材育成を重視しており、社員の成長を目指し、きたもっくの事業理念や取組を社内に共有するとともに、自社の新規事業の検討に活かしている。これまでにTAKIVIVAでの研修を3回実施し、計20人程度参加。オフサイト研修の場づくりや新規事業として何かできないかのアイデアを得た。研修に参加した社員の発案により、新規事業として、パーク内で企業向けの研修プログラム（ナイトサファリでの焚き火など）の提供を開始した。



従業員の声

気候や植生の全く違う土地で焚き火の火を見つめながら、改めて自分自身の内面を問うとても良い機会をいただきました。日常に追われているとどうしても忘れがちなことを色々と教えてくれる素敵な軽井沢の土地ときたもっくの皆様に感謝しています。

役割分担と参加促進に向けた取組

地域で提供されているプログラムの中から、必要に応じて選択して利用。

人的資本経営の観点から、移動コストがかかったとしても、自社と理念を共有できるかを重視して研修場所を選定している。

■プログラム構築：

企業が、地域で提供されているプログラムの中から選定し、研修に導入。

■導入形態：

参加必須の研修（宿泊）

■対象者：

若手社員

■費用負担：

企業が全額負担

目的

- 社員の自社事業・企業理念に対する理解向上
- 経営・プロジェクトに新たな視点をもたらす
- 環境教育
- 地域貢献・社会貢献

結果（企業の声）

- 社員への企業理念の浸透や、地域・社会貢献するような新規事業についてイメージを膨らませる非常に良い機会となった。